

都政課題解決スタートアップピッチイベント

UPGRADE with TOKYO

第 52 回ピッチイベント 募集要項詳細

【募集期間】

2025年10月21日（火）～2025年11月10日（月）18:00（予定）

【応募方法】

UPGRADE with TOKYO ホームページの第52回 募集ページ（<https://upgrade-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/theme/?theme=52>）内の応募フォームリンク

（<https://forms.office.com/e/tE77sXiL9D>）より、応募されるスタートアップのピッチ登壇予定者が、応募フォームに必要事項をご記入いただき、ピッチ素案資料と合わせてご提出をお願いします。

スタートアップのピッチ登壇予定者に対し、TOKYO UPGRADE SQUARE（TUS）の支援もご提供できるよう、応募に当たっては、メンバー登録をしていただくことを推奨します。メンバー未登録の方は、募集ページ（<https://upgrade-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/theme/?theme=52>）内のTUS メンバー登録リンク（<https://upgrade-square.jp/apply>）より、メンバーの登録をお願いします。

※TOKYO UPGRADE SQUARE（TUS）はUPGRADE with TOKYO の兄弟事業であり、行政機関×スタートアップの連携・協働を促進し、スタートアップの最適なプロダクトを社会へフィットさせることを目指す、官民連携の場を提供しています（ピッチイベントもTUS で開催中）。

スタートアップのピッチ登壇予定者に対し、TUS の支援もご提供できるよう、応募に当たってはメンバー登録をお願いしています。

<TOKYO UPGRADE SQUARE（TUS）で提供するサービス>

- コワーキング・交流スペースの利用（様々な属性のメンバーと交流できます）
- TUS オリジナルイベントへの参加（官民連携促進や事業成長に資するセミナー、パネルディスカッション、行政機関からのメンタリング等）
- 企業からの要望に応じて、スタートアップ支援の専門家により、行政機関に対する提案内容のブラッシュアップや経営課題の解決に資するアドバイスを提供

【応募及び問合せ先】

都政課題解決スタートアップピッチイベント UPGRADE with TOKYO 事務局

E-mail：upgrade.with.tokyo_jimukyoku@tohmatu.co.jp

【イベント概要】

審査を通過した5社のスタートアップによるピッチイベントを下記の通り開催します。

●日時 2025年12月5日（金）14:00～16:45を予定（会場集合は11:00～12:00を予定）

●主な内容

- 1 スタートアップによるピッチ（5社を予定）
- 2 結果発表及び審査委員講評
- 3 フォトセッション

【開催場所】

TOKYO UPGRADE SQUARE（新宿区西新宿二丁目6番1号新宿住友ビル25階）

1. 本事業の目的

東京が抱える様々な都政課題を解決するためには、民間から生まれた画期的な製品・サービスを活用することが重要です。

そこで東京都では、スタートアップによる都政課題解決に向けた製品等のピッチや、行政機関、VCや企業等との交流の場を創出するイベントを2019年12月から開催しています。

ピッチ審査で審査委員から都政課題の解決に資すると認められたスタートアップは、事業の協働等に向けて具体的な交渉を進めるきっかけを持つことができます。ぜひご応募ください。

2. 主な応募対象

応募条件は、以下のとおりです。応募には、業種の制限はありません。

応募条件に該当するか判断に迷う場合は、運営事務局までご相談ください。

- 概ね創業後10年未満又は第二創業後10年未満であること
（注）一般社団法人、合同会社、個人事業主等も含みます。
また、第二創業には、製品・サービスの新リリースや大きな改良も含みます。
- 応募テーマに合致した製品・サービスを有し、最新バージョンをリリースしてから5年以内であること
- 公序良俗に反する事業を行うなど、東京都が支援することが適さないと判断した企業等ではないこと

※ 過去に本事業で優勝している場合については応募対象外とします

3. 応募テーマ

『DX技術等を活用した新たな非破壊検査手法の構築』（下水道局）

下水道の保守・点検に際しては、技術者が現場を訪れて実施する目視点検に加えて、打音検査等の非破壊検査を行う等の、検査を実施しております。打音検査は、下水道管きょ等の亀裂や剥離、空洞等を迅速に確認できる手法ですが、調査員の経験や感覚等の熟練度に依存するため、結果のばらつきが生じやすいという課題があります。

また、打音検査だけでは構造物の強度等を定量的に評価することはできないため、空洞が疑われる箇所や異常音が確認された部分については、別途コア抜きし、強度試験を行うなど、より詳細な調査を行っています。

そこで、AIやDX技術等を活用し、技術者の打音検査に寄らず、現場データの自動収集・解析や強度および異常を推定し、下水道管きょ等の調査・判定を効率化できる技術を募集します。

■ 期待する製品・サービスの機能の例

- ① AIやDX技術等を活用して、誰が実施しても同じ結果が得られる客観的かつ再現性の高い診断手法（イメージする調査手法：非破壊型AI・DX技術）
- ② 打音調査やコア採取を行わず、対象構造物の劣化状況や構造物の強度を推定できる効率的な調査・評価をできる技術（推定強度や剥離等の劣化状況を可視化できる機能）
- ③ 調査員が下水道管きょ内に立ち入ることなく、ロボットやドローン等を活用し無人化で調査できる技術。負担を軽減し、調査の省力化と迅速化が可能な技術。（下水道管きょ内で調査機器を運用する方法）

4. 主な審査基準

次のような観点で審査し、5社（予定）を選出します。

- ・ 製品・サービスが上記応募テーマに合致しているか
- ・ 製品・サービスを用いて東京都や区市町村と協働することにより、都政課題の解決に資することが見込まれるか
- ・ 製品・サービスに新規性・独創性があるか、ソーシャルインパクトがあるか
- ・ 財務状況等に問題がなく、製品・サービスの生産(提供)計画に適切性があるか

応募者全員に対し、事務局から結果を通知します。

5. 応募手続き

(1) 応募スケジュール (予定)

応募期間	2025年10月21日（火）～2025年11月10日（月）18時（予定）
書類審査結果通知	2025年11月14日（金）を予定
プレピッチ審査 (ピッチイベント登壇者選出)	2025年11月25日（火）を予定 ※オンラインによる実施

(注) 書類審査通過者には事務局等に対するプレピッチ(オンライン)を実施していただきます。

参加方法は審査通過者に別途ご連絡いたします。

応募に当たっては、11月25日（火）の日程を空けておいていただきますようお願いいたします。

(2) 提出書類

応募フォームへの記入及び公開可能なピッチ資料ドラフト版（以下の説明を含む。pdf ファイル形式。10MB 以内。）

- ・ 製品・サービスの名称・概要
- ・ 製品・サービスが応募テーマに合致していること
- ・ 製品・サービスを用いて東京都や区市町村と協働することが都政課題解決に資すること
- ・ 東京都及び区市町村と契約する場合の内容や金額別プラン
- ・ 東京都及び区市町村との役割分担
- ・ 東京都及び区市町村との協働や製品・サービスの導入までの全体スケジュール

(注) 公開可能なピッチ資料ドラフト版は、少なくとも書類審査で利用します。

応募者全員が提出してください。

また、プレピッチ前、ピッチ本番前に、公開可能なピッチ資料を出し直すことができます。

(3) 提出方法

(<https://forms.office.com/e/tE77sXiL9D>) より、必要事項を応募フォームにご記入の上、ピッチ資料ドラフト版と合わせてお申し込みください。

6. その他

状況により、ピッチイベントをオンラインで開催する可能性があります。

社会インフラの調査

- ・下水道管きょ等の構造物を調査するための簡便な調査手法として、打音調査が広く利用されています。打音調査は対象構造物をハンマーで叩き、その音の違いにより亀裂や剥離の程度や空洞の深さ等を調査する方法です。
- ・しかしながら、打音調査では、内部鉄筋の腐食状況や中性化等の進行度を確認できないため、必要に応じてコア抜きにより試験体を採取し、強度試験等を行っております。
- ・大口径・大深度の下水道管では水位が高く、流速の早い下水道管きょ等では、調査やコア採取のために、水替えや換気等が必要なため、準備に時間がかかり多大な労力を要します。

現状の課題

- ・調査員の熟練度（経験や感覚等）により、結果にばらつきがある等、定量的な評価ができない。
- ・強度の評価には別途試験が必要で、コストと時間を要する。
- ・調査・試験に時間がかかり、効率化が求められている。
- ・下水道管きょ内では調査員が立ち入る必要があり、しっかりとした安全対策が必要

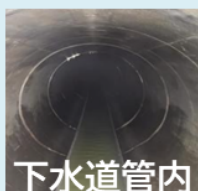


期待するシステム・サービスの機能の例

○DX技術等を活用した新たな非破壊検査手法の構築

- ①AIやDX技術等を活用して、誰が実施しても同じ結果が得られる
客観的かつ再現性の高い診断手法（イメージする調査手法：非破壊型AI・DX技術）
- ②打音調査やコア採取を行わず、対象構造物の劣化状況や構造物の強度を推定できる
効率的な調査・評価をできる技術（推定強度や剥離等の劣化状況を可視化できる機能）
- ③調査員が下水道管きょ内に立ち入ることなく、ロボットやドローン等を活用し
無人化で調査できる技術。負担を軽減し、調査の省力化と迅速化が可能な技術。
（下水道管きょ内で調査機器を運用する方法）

- 得られた情報をもとに、現在の社会インフラの強度等を推定
精度をブラッシュアップし、下水道インフラの現地調査の効率化を実現



下水道管内

下水道に限らず広く社会インフラに
対応できる調査・判定手法を確立